

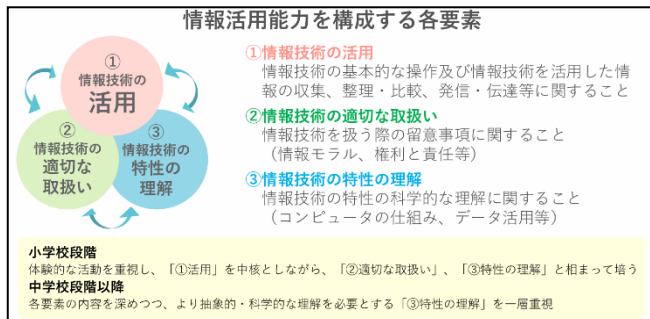
次期学習指導要領の改訂が進んでいます

校長 相川 保 敏

は手書きでの書写の指導を推進することも示されています。これも本校では1年生から習字を行うなどすでに取り組まれているところもあります。一方、理科では日常生活とのかかわりを意識した単元が新たに作られることになりますが、学習指導要領の改訂を待つて検討していく予定です。

次期学習指導要領ではこうした教科の内容変更だけでなく、各教科の時間数の弾力的運用、評価観点の見直しなども行われます。本校では次年度から教育活動全般の見直しの検討を進めていきます。年々厳しくなる暑さを鑑み、併せて年間行事の見直しや三学期制から二期制への移行なども検討していきます。早ければ、2028年度から新しい教育活動をスタートさせていく予定です。検討内容については、随時お伝えしていきます。

ご理解とご協力をお願いいたします。



教育課程企画特別部会 論点整理（ポイント:概要版）より

今月1日、文部科学省の諮問機関である中央教育審議会が次期学習指導要領の全体像となる審議のまとめた案を出したことが報道されました。学習指導要領はおよそ10年ごとに改訂され、時代の変化に応じて子どもたちに必要な資質・能力を育むための文部科学省が定める教育の基準となるものです。新しい次期学習指導要領は本年度末に改訂される予定で、2030年度から全面実施されることとなります。

上の図は、情報活用能力の育成について検討されている内容が示されたものです。情報活用能力の育成はこれからの時代を生きていく上で欠かせないものとして、中学校では「技術・家庭科」を「情報・技術科」と「家庭科」に分けること、小学校でも総合的な学習の時間は「総合的な探究の時間」と名称が変わり、その中で「情報の領域」が新設される予定です。小学校の情報の領域では、図に示されているようにスライドを作成するといった「①情報技能の活用」、誤情報を拡散しない方法を考えるといった「②情報技術の適切な取扱い」、プログラミングを体験するといった「③情報技術の特性の理解」といった三つの観点から情報活用能力の育成を図っていきます。本校では①情報技術の活用②情報技術の適切な取扱いについてはすでに取り組んでおり、③情報技術の特性の理解については、ロボットプログラミングを推進しておりますが、指導の一部の見直しを図っていく必要があると考えています。この他にも、改訂により国語で

9月8日（火）の大雨では、緊急対応として全てのご家庭にお子様のお迎えをお願いしました。想定を超える雨量により公共交通機関の運休や道路の渋滞などにより、多くの皆様が大変な思いをされたことと思います。ご協力いただきありがとうございました。

保護者の方からは、「子どもだけで帰宅しなくてよかった」「非常食もビスケット、時間をおいてカレーピラフが出ておなかをすかせることはなかった」「校内で安全に過ごす子どもたちの様子がインスタで発信され、安心した」という声をいただきました。最後のお迎えが深夜になりましたが、全員無事に帰宅できてなによりでした。

今回の大雨により緊急時の対応の在り方についての課題も見えてきました。学園全体として検討を進めているところです。どのような状況であっても、子どもたちの安全を第一に考えることはもちろん、保護者の皆様の不安やお気持ちに寄り添うことを今後も大切にしていきます。家庭と学校との信頼関係のもとで、子どもたちの成長を支えられるよう努めてまいります。